

文覺勸進帳ヲバ、左ノ手ニ取渡シ、右ノ手ニハ、懷ヨリ刀ヲ拔出、管ニハ馬ノ尾ヲ組テ卷、一尺餘リナル刀ノ日ニ耀テ如氷、長七尺計ナル法師ノ、而ル大力ニテ、衣ノ袖ニ玉ダスキ上、眉ノ毛ヲ逆ニナシ、血眼ニ見テ庭上ヲ狂廻ケレバ、思懸ヌ俄事ニハアリ、コハイカバセント上下騒ゲリ、

〔吾妻鏡八〕文治四年九月十四日丁未、長茂參入諸人付目、長七尺男也、著白水干立烏帽子、融二行著座中、參著横敷、宛簾中於後、自其内二品御一覽、不被仰、是非定任見、此體頗頽面、

〔北條五代記九〕關東の亂波智略の事

それ風摩は、二百人の中に有てかくれなき大男、長七尺二寸、手足の筋骨あらく敷、爰かしこにむらこぶ有て、眼はさかさまにさけ、黒髭にて口脇兩へ廣くさけ、きば四ツ外へ出たり、かしらは福祿壽に似て鼻たかし、聲を高く出せば、五十町聞え、ひきくいだせば、からびたる聲にて幽なり、見まがふ事はなきぞとよ、

〔陰德太平記八〕武田光和逝去附噂之事

此人和、中略武田光 生長ノ後、力氣人ニ超、勇悍世ニ勝レ、太刀打早業凡人ノ及ブ所ニ非ズ、イカ様九郎義經ノ再來ニヤトゾ稱シケル、其長七尺餘有テ曹交、子胥ニ齊シ、眼逆ニ裂、髯左右ニ分レテ、紫髯將軍、桓伊共云ツベン、

〔傍廂後篇〕大男

むかし釋迦嶽雲右衛門といひし相撲は、身長七尺八寸ありしよし、我彦齋藤 幼き頃にてつひに見ずやみたり、その後親しく見しは、谷風梶之助源守胤といふ、陸奥宮城郡霞月村農民彌右衛門子、寛延三年八月八日出生、幼名は與四郎といふ、十九歳にて力士となり、秀の山といひ、後に伊達が關と改め、廿歳にて、谷風梶之助と改む、寛政七年正月九日死、行年四十六歳、仙臺東漸寺に葬る、法名釋谷響了風といふ、身長六尺三寸餘、圓七尺餘、四十五貫目あり、我が、る大男を始めて見た